校長通信　令和２年　１号　２０２０．４．２７

校長　山岸　薫

はじめまして、この４月より伝統ある長野俊英高等学校の校長となりました山岸薫です。本校が初代理事長窪田良平先生の人間性により前身の篠井旭高校を立ち上げた時と時を同じくして人生を歩んでまいりました。この深いご縁に立ち本校に通う生徒たちがそれぞれの未来につながるよう発展の使命と責務の重さを感じています。

さて、この春の人事異動で、教科指導・部活動指導で豊かな経験をもつ６名の先生方をお迎えしました。現在は直接ご指導いただける時間と機会が限られています。今後意欲を持った生徒たちの自己実現につながるよう力を発揮し導いていただければと思います。どうぞ宜しくお願いします。

校長室の机に向かうと、背中から「努力」の二文字が見下ろしています。偉大な功績を残された誰もが知っている野球の神様“川上哲治”氏の色紙です。人はある時夢をもち自分の可能性を信じて相応の努力をします。オリンピックやパラリンピックを目指す一流のアスリートたちが夢の実現のために頑張る姿は国民に勇気と元気を与えています。自分はここまでやったからこれでよしとするか、これ以上は無理だ、いやもっとがんばると自分の心に問いかけて、日々努力します。努力のあり方は人によってどこかで差が生まれます。偉業を成し遂げた人の努力の大きさは容易には想像できません。血のにじむ努力や継続こそが努力などの言葉を耳にします。今の自分に奢ることなく偉大な先人の努力のあり様に想像を働かせて、自らの小ささや不完全さの自覚の上で自己実現に向けた日々の精進に期待したいと思います。

現在、日本および世界中で新型コロナウィルス感が染拡大しています。今も時々刻々と変化しその脅威は安全と言えるほどの収まりの気配を見せません。ウィルスという目に見えない存在が、人々を無言の恐怖に陥れています。レイチェル・カーソンが書いた『沈黙の春』は、日本が高度経済成長の豊かさへまっしぐらになっていた 1960 年代の初めに出された有名な著書です。当時まだ十分認識されていなかった農薬の残留が生態系に大きな影響を与えている。人間生活を取り巻く自然の環境に安全上の問題を発生させている。その原因には限度ない農薬の使用にあることを知らせ、警鐘を鳴らしました。以後農薬の使用基準が進められ規制されて今日に至っています。

休日などに私は畑に出て手に負えない雑草と格闘したりしています。人間に直接に益をもたらしているか分からない昆虫植物など生命力ある自然の力を前に人はちっぽけで、あらがいながら大地を耕し、人が手をかけないと弱い野菜たちを育てようと悪戦苦闘しています。農薬の袋や瓶を手に基準表に目をやり希釈し使用します。スーパーに並んだ安くきれいなたくさんの野菜を見ると、そのきれいさに驚きます。育てたものには穴が開き、素人とプロの差は歴然。畑仕事を通して生きる価値観を問われているような気がします。大事にすべき価値の基準はどこに置いて生きるのか。その時、苦労して時代を開いた親世代の人々の

生き方や教えに思いやる自分がいます。創立された良平先生も同じ線上の偉大な存在です。

日本史の教科書を学ぶと、各時代によっては疫病や飢饉の流行で苦しむ庶民の姿が描かれています。生きる抜くことに必死だった過去の日本人の大変さを、高校生の時は感じ取ることなく浅はかであったと気づかされます。まさに人類の脅威として新型コロナウィルスが世界中の人々を精神的に苦しめています。

始業式に2･3年生のみなさんには、学校に登校できずにいる日々でこの三月からどんな生活をしてきたのか、自分が果たして本当にやりたいことは何だったのか、これまで人から言われてしかやらなかった自分ではなかったか、もしやろうとしていることがあれば自分から取り組みを始めることができるのではいか。今、個がしっかりと確立しているかが問われている。「個の確立」を目指そうというお話をしました。しかし、これほどまでに感染の拡大が進む中では、若者の心の持ち方への心配が膨らんでいます。人とのつながりは感染拡大を引き起こしてしまうため、人々は引き裂かれ孤立が進んでいます。幾つもの手段を通しての手助けが必要です。

校長室にはもう一枚、前身の篠ノ井旭高校の創立時に作られた校歌の歌詞の書が掲げられています。島木赤彦の門下のアララギ派歌人伝田青磁先生の最晩年の直筆の書です。

本校のある地、横田河原は1560年ごろの川中島の合戦のちです。さらにさかのぼること380 年前の１１８０年ごろ以仁王の令旨によって立ち上がった郷土の偉人木曽義仲が源平合戦で平家と戦った地でもありました。

校歌の一番は歴史を拠り所に人の理想の姿を語り、二番では自然豊かなこの地が育む精神のあり様を語り、三番で未来に向けた希望の姿に、誇り高く巣立っていく本校生の理想を描いています。

創立60年、そして中興のスタートを切って17年。「すぐれた者」＝俊英の人材育成に向けて走り出してきた本校生が 1 日も早く日常の学校生活を取り戻し、現在置かれた環境下でできうる精いっぱいの活動を通して、新たな希望への道筋をしっかりとできるようにと願います。

最前線で、従事していただいている医療関係者、保健関係者の皆様に感謝の気持ちを大事に、私たちも最善の注意を払う日々を送りながら、コロナに負けぬようともに頑張りましょう！